

令和5年度 ー関西大学ラグビーリーグ戦戦績ー

Bリーグ12チーム中10位、入替戦は引き分けBリーグ残留

令和5年度(2023年度)リーグ戦&入替戦 試合結果

まず1次リーグとして、12チームを6チームずつB1とB2の2グループに分けてリーグ戦を行い、次に1次リーグの各グループでの上中下同士4チームで行う2次順位決定戦が実施されました。神戸大学は、1次リーグのB2グループでは0勝5敗、勝ち点3の6位となり、2次順位決定戦では下位グループ(9位~12位)に回り、初戦は花園大学に勝利、9位・10位決定戦は大阪経済大学に敗れました。最終的には、Bリーグ12チーム中10位で終え、Cリーグとの入れ替え戦に臨みました。入替戦では大阪学院大学と引き分け、Bリーグ残留となりました。2次順位決定戦での選手の動きは良かったのですが入替戦では重圧のためか動きは硬く受けに回ることがありました。それでも、相手のゴールキックを出足鋭くチャージし追加点を阻止しました。終了間近、40m超のペナルティゴールを見事に決め引き分けに持ち込みました。試合終了直後の選手の目は皆真っ赤で必死に戦ったことが伝わりました。春シーズンから成長が見られ、もう1、2試合、勝てる試合があったので勝利の味を味わって欲しかったです。今年は新たな100年の最初の年です。OB・OGの皆さん、グラウンドに足を運び、現役への応援を宜しくお願いします。

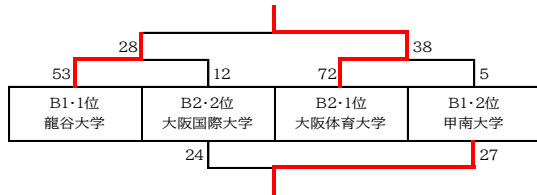
■関西大学Bリーグ最終順位

1位：大阪体育大学 2位：龍谷大学 3位：甲南大学 4位：大阪国際大学
5位：京都大学 6位：大阪産業大学 7位：追手門学院大学 8位：大阪工業大学
9位：大阪経済大学 10位：神戸大学 11位：花園大学 12位：大阪教育大学

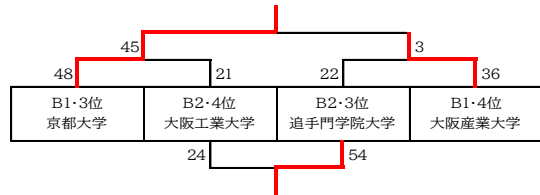
B1リーグ	龍谷大	京大	甲南大	大産大	花園大	大経大	勝	負	分	得失点	勝点	順位
龍谷大学	○	○	○	○	○	○	5	0	0	204	25	1
京都大学	●	○	○	○	○	○	3	2	0	88	15	3
甲南大学	●	○	○	○	○	○	4	1	0	83	20	2
大阪産業大学	●	●	●	○	○	○	1	4	0	-66	7	4
花園大学	●	●	●	○	○	○	1	4	0	-154	6	5
大阪経済大学	●	●	●	●	○	○	1	4	0	-155	5	6
	34 - 19	41 - 7	59 - 7	66 - 24	83 - 22							
	19 - 34	12 - 32	35 - 19	52 - 0	74 - 19							
	7 - 41	32 - 12	31 - 17	55 - 3	48 - 17							
	7 - 59	19 - 35	17 - 31	26 - 31	38 - 17							
	24 - 66	0 - 52	3 - 55	31 - 26	28 - 41							
	22 - 83	19 - 74	17 - 48	17 - 38	41 - 28							

B2リーグ	大体大	大教大	大工大	大工大	追手門大	神戸大	勝	負	分	得失点	勝点	順位
大阪体育大学	○	○	○	○	○	○	5	0	0	287	25	1
大阪教育大学	●	○	○	○	○	○	1	4	0	-115	5	5
大阪工業大学	●	○	○	○	○	○	2	3	0	-147	10	4
大阪国際大学	●	○	○	○	○	○	4	1	0	40	21	2
追手門学院大学	●	○	○	○	○	○	3	2	0	23	17	3
神戸大学	●	○	○	○	○	○	0	5	0	-88	3	6
	28 - 0	134 - 0	85 - 38	57 - 7	28 - 0							
	0 - 28	14 - 38	7 - 47	0 - 28	29 - 24							
	0 - 134	38 - 14	19 - 40	12 - 50	39 - 17							
	38 - 85	47 - 7	40 - 19	45 - 41	36 - 14							
	7 - 57	28 - 0	50 - 12	41 - 45	44 - 33							
	0 - 28	24 - 29	17 - 39	14 - 36	33 - 44							

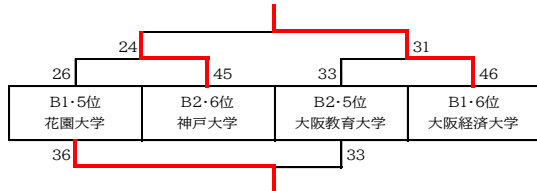
2次上位T



2次中位T



2次下位T



BC入替戦 12月10日(日)

対戦カード			会場
大阪教育大学 B12位	33-22 (19-10)	大阪公立大学 C1位	大阪公立大学
花園大学 B11位	75-12 (35-0)	関西外国語大学 C2位	
大阪経済大学 B9位	22-29 (5-12)	大阪大学 C4位	鶴見緑地
神戸大学 B10位	22-22 (19-12)	大阪学院大学 C3位	

大阪大学 B リーグ昇格。AB は入替え無し。

【リーグ戦】

9月17日(日) 大阪工業大学戦 14:00 K0@鶴見緑地球戯場

(神戸大学) 前半 17-14 後半 0-25 合計 17-39 (大阪工業大学)

前半序盤、自陣深くまで攻め込まれる時間が多かったが、相手のミスにより、得点を阻止した。その後、フォワードとバックスの上手く連携したアタックにより得点を重ねる事ができた。しかし、後半になると徐々に点差が離れていった。終始、スクラムを押されたことで、相手のアタックを勢い付けてしまったことが悔やまれる。

9月24日(日) 大阪体育大学戦

こちらの都合で棄権となったため、大阪体育大学の勝利となりました。

10月8日(日) 大阪国際大学戦 12:00 K0@四条畷市民グラウンド

(神戸大学) 前半 14-19 後半 0-17 合計 14-36 (大阪国際大学)

豪雨の中の試合となり、相手チームにはミスが目立ったが、我々はミスを極力減らすことが出来た。前半は、激しい攻撃に曝されながらも、固いディフェンスをすることができ、点差を抑えた。そして、アタックにおいて、丁寧で継続することで得点を重ねていった。後半は足が止まったのか、点差を広げられてしまう。終始スクラムが押されてしまったのが、課題である。

10月15日(日) 大阪教育大学戦 13:00 K0@甲南大学グラウンド

(神戸大学) 前半 5-19 後半 19-10 合計 24-29 (大阪教育大学)

前半は風下となり不利な条件でスタート、相手ゴール前の味方ラインアウトでのミスが見立ち、スクラムは押され気味であった。相手 PK からタッチ、ゴール前の相手ラインアウトのモールで攻められる展開が多く、前半に3トライを許してしまう。後半は風上という優位条件であったが、キックのコントロールミスが目立ち、エリアマネジメントが上手くできていなかった。交

代も機能せず、スターティングメンバーとリザーブメンバーの実力差が顕著に出てしまった試合だった。

10月29日(日) 追手門学院大学戦 13:00 K0@甲南大学グラウンド

(神戸大学) 前半 19-22 後半 14-22 合計 33-44 (追手門学院大学)

前後半通じて随所に好タックルが見られた。前半は先制のトライこそ許したものの、その後30分までは3トライを連取し、こちらのペースでゲームを展開できていた。体重で相手に劣るFWはスクラムで押され、相手ラインアウトではモールで攻められる展開が多かったが、個々のタックルでカバーできていた。しかし後半、選手層の薄い我々はフィットネス不足が徐々に見え始め、ラック付近のDFが甘くなり、オフロードパスへの対応も後手に回ってしまい敗戦した。相手はゴールキックの失敗が続きペースに乗れない一方、僅差で最後まで食い下がれたことは良かった。

11月19日(日) 花園大学戦 11:00 K0@大阪経済大学グラウンド

(神戸大学) 前半 19-14 後半 26-12 合計 45-26 (花園大学)

試合を通して意地とプライドが見られた好試合だった。相手の留学生は3人とも高い突破力を誇り、何度もボールを持ち、神戸大のDFを吹き飛ばしていた。それでも2人、3人がかりの低いタックルで止めると相手のミスを誘い、一気に敵陣へ侵入するといった理想的なゲーム運びができたと感じる。



11月26日(日) 大阪経済大学戦 13:00 K0@大阪経済大学グラウンド

(神戸大学) 前半 19-14 後半 5-17 合計 24-31 (大阪経済大学)

前半は相手DFの手薄なところを効率よく攻め、トライを奪った。一方後半はラインブレイクから一気にトライを奪われる展開が立て続けに発生してしまった。味方同士の連携を高める必要があると痛感した試合であり、入替戦に向けて一層危機感が募る80分になった。

【入替戦】

12月10日(日) 大阪学院大学戦 14:00 KO@鶴見緑地グラウンド

(神戸大学) 前半 19-12 後半 3-10 合計 22-22 (大阪学院大学)

試合開始早々にトライを献上してしまったが、その後はキックを蹴り込み陣地を確保する戦術と、相手の前進を許さない堅守によって失点のリスクを最小限に留めた。しかし、こちらもアタックでも決め手を欠き、ロースコアのまま試合終盤へ。最後は15番諸星がロングPGを沈め、同点。そのまま点数は動かすノーサイド。Bリーグ残留を決めた。



三商大戦

6月21日(日) 大阪公立大学戦 10:30 KO@大阪公立大学杉本町グラウンド

(神戸大学) 前半 0-19 後半 26-12 合計 26-31 (大阪公立大学)

けが人が多くメンバーがギリギリの状態での試合だった。そのため前半は普段とは大幅に異なる采配で挑んだのだが、うまく機能せず劣勢が続いた。後半は普段と近い采配に戻し、何とかペースを取り戻したのだが、決定機でトライを奪えず、逆に独走トライを奪われてしまった。このトライが致命傷となり敗戦した。様々な面で未熟さが目立つ試合だった。

12月16日(土) 一橋大学戦 13:00 KO@一橋大学ラグビー場

(神戸大学) 前半 0-10 後半 0-12 合計 0-22 (一橋大学)

前半開始から40分間は互角の攻めと守りを続けていた。攻撃面では手堅いプレー選択が長い時間続いてしまい、相手のトライラインに迫る場面はあったものの、越えることは一度も叶わなかった。試合を通して感じたのは相手のDFの粘り強さである。一人がタックルを外されてもまた次の選手が足元に飛び込んでくる。Bリーグでは味わったことのない粘りであった。こうした欧州のクラブチームのようなDFで神戸大のビッグゲインがトライチャンスにならなかった。敗戦ではあったが、試合に出た下級生にとっては今までにない大きな学びとなった試合だと感じる。



12月18日(月) 大阪公立大学 24-12(前半 14-7) 一橋大学 @一橋大学ラグビー場

■順位: 1位: 大阪公立大学 2位: 一橋大学 3位: 神戸大学

甲南大学定期戦

7月2日(日) 甲南大学戦 10:30 KO@甲南大学グラウンド

(神戸大学) 前半 0-24 後半 0-31 合計 0-55 (甲南大学)

甲南大学とのフィジカルの差が顕著に表れた試合だった。春シーズンは甲南大学と毎週水曜日に合同練習を行っていたが、その時から彼らの縦への強さはひしひしと感じていた。試合を通して接点で圧倒され、テンポの速い攻撃にやられてしまった。相手の激しいタックルにより思うようなアタックもできず、しんどい試合展開となった。この挫折が危機感を生んだという点で、いい経験になったように思う。

今シーズンを振り返って(現役チームから)

1. 御礼

はじめに、今シーズンを通してご支援・ご声援をくださいましたOB・OGの皆様、保護者の方々をはじめとするすべての関係者の皆様にお礼を申し上げます。チームを支えて頂き有難うございました。今年は創部100周年ということで普通は経験できないような様々なことを経験させていただきました。皆様の支えを例年以上に実感することのできた年だったと思います。本当に有難うございました。

2. 今シーズンの戦績について

今年のリーグ戦は例年と同じく、入れ替え戦を含め8試合での開催となりました。1勝1引き分け6敗と敗戦が多く、入れ替え戦も引き分けと、最後まで気の抜けないリーグ戦となりました。何とかBリーグに残留が決まった時の気持ちを表すには喜びというよりか安堵という言葉が近いように思います。

3. 今シーズンの総括

チーム始動当初から「Bリーグ上位」を掲げてまいりましたが、蓋を開けてみると勝ち数はたったの1でBリーグ10位という悔しい結果に終わってしまいました。春シーズンからけが人などが原因で思うように試合を実施できず、精神面での団結も弱いチームでした。しかし、第5戦の追手門学院大学との試合からチーム力がぐっと上がった実感があります。後半の失速が課題であった我々にとって、格上の相手に対して後半もしっかりと戦えたのは大きな収穫でした。続く花園大学戦でも前半半通して戦い抜くことができ、勝利を収めることができました。ですが、残る二試合はチームとしての気持ちの弱さが露呈し勝ち切ることはできませんでした。結果から見ると特に進歩のない年のように感じられますが、部としては成長が感じられる一年になりました。100周年ということもあり、OBの方々との連携を密に取りながらチームのインフラの整備を行うことができました。神戸大学ラグビー部の意一番の特徴といっても良い天然芝のグラウンドの整備に加え、筋トレ設備や部室といった新たな設備を整えて頂きました。来年からこれらの設備を本格的に使用することができ、私立チームとの設備面での差は埋まってきつつあります。さらに、こういった取り組みの後押しもあり、新入生の獲得も順調に進めることができました。試合内容に注目すると、リーグ戦のほとんどの試合で前半はいい勝負ができています。今年から導入したアタックシステムを含め、格上相手にも確実に通用する部分がありました。上位リーグ進出が夢物語ではないことが実感できたと思います。

4. 後輩へ

昨シーズンとは良くも悪くも毛色が変わり困惑した人も多かったでしょうし、不満を感じる部分も多々あったかと思います。リーグ戦での勝ち数も1試合のみとなかなか苦しいシーズンでした。入れ替え戦は引き分けで何とかBリーグに残留できましたが、この結果は後輩の皆さん

の頑張りがあってこそのもです。今年のチームは例年以上に下級生の影響が大きかったと思います。来期は、一人一人がチームのために行動できるような素晴らしいチームが作れると確信しています。ここ数年はBC入れ替え戦への出場が続いていますが、貴方たちであればそこから脱却できるのではと期待しております。練習の頭数が足りない、悩みがある等、私たちOBが力になれることがあれば喜んで引き受けますので気軽に使ってください。口では面倒くさがる先輩もいるでしょうが、内心では頼られることを喜んでいるはずですよ。

最後になりますが、神戸大学ラグビー部に関わってくださったすべての皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。そしてこれからも神戸大学ラグビー部へのご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。



令和6年度（2024年度）首脳陣

- ・主将：南 俊輔（経済・新4年）
- ・副将：京田 祐樹（海洋政策・新4年）
- ：伊藤 陸（BKリーダーも兼任）（経済・新4年）
- ・FWリーダー：川本将太（法・新4年）
- ・主務：島田 颯太（経済・新3年）
- ・副務：松尾 温斗（海洋政策・新3年）

創部100周年記念事業

創部100周年事業への感謝

昭和53年(1978年)卒 OB会会長 田中計久

この年末は、昨年12月に発刊された神戸大学ラグビー部創部100周年記念誌を手に取り、OB会として100周年記念事業を何とかやり遂げることができたという感慨にしばらく浸っておりました。

神戸大ラグビー部およびOB会にとって幸運であったことは、2020年はじめから深刻化したコロナ禍が昨年夏前から鎮静化していったことです。そのこともあり、昨年7月9日の創部記念式典及び祝賀会は、無事250名あまりの来賓、出席者を迎え盛大に開催することができました。創部100周年が2～3年先行したが故にコロナ禍の渦中で記念式典、祝賀会を開催できない、或いは式典や記念誌発刊のみという形で行わざるを得なかった他校ラグビー部およびOB会では残念な思いがあったと思いますが、我々としては100周年記念事業を企画する上で、他校ラグビー部およびOB会の先例をお手本にさせていただくことができました。

そのような事情があったうえで、創部100周年記念事業の三本柱である記念式典、記念誌、記念インフラ事業(クラブルーム、ロッカールーム等)の各事業が順調に進んだ最大の要因は、100周年記念事業の原資となる寄付募集で医学部ラグビー部OBを含め多数のOBに応じていただいたことでした。2018年の深江グラウンド芝生化に際し多額のご協力をいただいた前回の寄付から、まだあまり間がない時期に十分な金額が集まるかという懸念の声もありましたが、最終的に目標金額を大きく上回る寄付が集まりました。また前回の寄付と比べ、平成年度卒以降のOBが学年幹事を中心に多く協力してくれたことも特筆すべきことです。十分な資金が確保できたうえで、それぞれの事業に向けて数多くのOBが創部100周年事業準備委員会を中心に、その準備に早くから関わってくれました。企画やアイデアを周到に練り、スケジュールを決めて、さまざまな手配、段取りが必要な事業ばかりでした。大学や業者との折衝は何度も行われました。式典・祝賀会の進行では、OBのみならず現役部員達も全面的に協力してくれました。

今年のゴールデンウィーク前半に例年同様OB総会を開催する予定であり、その際には完成したクラブルームやロッカールームをお披露目する予定です。クラブルームには、ラグビー部に在籍した全OBのネームボードも取り付けられます。また芝生植え付けから7年が経過し、芝生の厚みが増した深江グラウンドも見学していただければと思います。

最後になりますが、OB会の強い絆と個々のOBの多大な貢献があつての創部100周年記念事業でした。あまりに多数で、いちいちのOBのお名前を記すことはできませんが、寄付を頂戴し、またそれぞれの事業を推進し協力していただいたOBの皆様にこの紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

クラブハウスの夢がカタチに！ ミーティングルームとロッカールームが完成！

昭和57年（1982年）卒 中本和夫

このたび創部100周年記念事業の一環として、大学側の協力を得て深江キャンパスの体育館内にクラブルーム（ミーティングルーム・ロッカールーム）を設置しました（写真1）。現役部の充実、チーム力の強化、更にOB会の活動の拠点としてフルに活用され、神大ラグビー部ワンチームの活動に資することを期待します。



写真1a：ミーティングルーム

写真1b：ミーティングルーム

写真1c：ロッカールーム

今回の両施設設置計画の背景として、2018年の創部95周年の記念事業として推進された深江グラウンドの芝生化事業が完了し、続いてこの芝生グラウンドに相応しいクラブハウスを建てることを当時の故吉川会長が希望されていたと伺いました。建築関係の業務経験と海外のラグビークラブハウス（写真2）を見学した経験を生かして深江キャンパスのクラブハウス実現に向け施設計画に参画しました。



写真2：カナダのクラブハウス内部

グラウンドが海辺にありミナト神戸らしい外観の建物（図1）をイメージしましたが、大学側と実際に協議を進めていくと、大学側の現実的な全体施設計画と整合せず、法的な制約も加わり新規のクラブハウス建設計画は夢となりました。

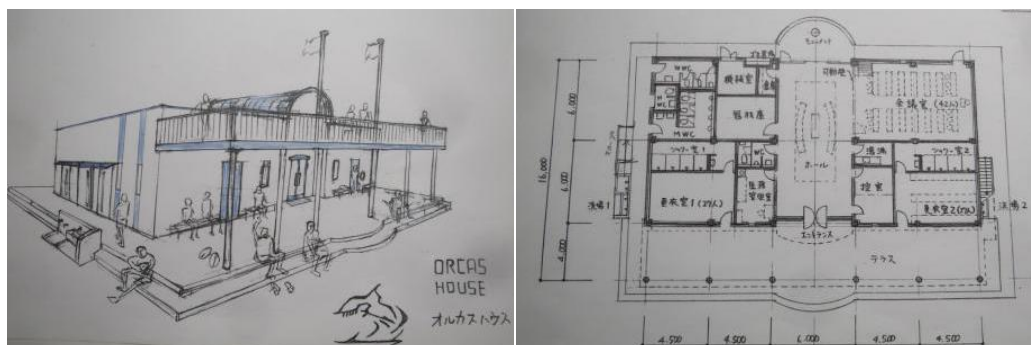


図1：当初のクラブハウス計画案

また、これら2室の内装改修工事、設備工事、家具備品の費用はすべて100周年事業のために集められたOBの方々からの寄付金によって可能となりました。今後の施設の活用の仕方・工夫によって更なる価値が生まれることを願っています。

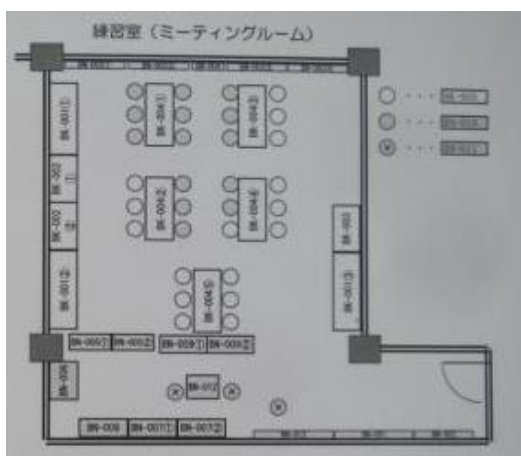


図 2b: ミーティングルーム レイアウト

- ・天然芝グラウンドと合わせて神大ラグビー部の活動を学内・学外へPR
- ・ビジターチームにも気持ちよくプレーできるようにロッカールームを整備
- ・現役のラグビーに対する心の拠り所、思い出の場を提供
- ・チーム強化のための戦略基地
- ・OB会の事務拠点と共に現役とのコミュニケーション・交流の場

FGF(Fukae General Facilities) 運営ルール

FGF とは、クラブルーム（ミーティングルーム）、ロッカールーム、トレーニング設備をまとめた呼称です。FGF の運営ルールの検討を現役メンバーと一緒にを行っています。今年度中に案が固まり提示できる見込みです。主な検討項目は次の通りで、ご意見あれば事務局にお伝えください。

<主な検討項目>

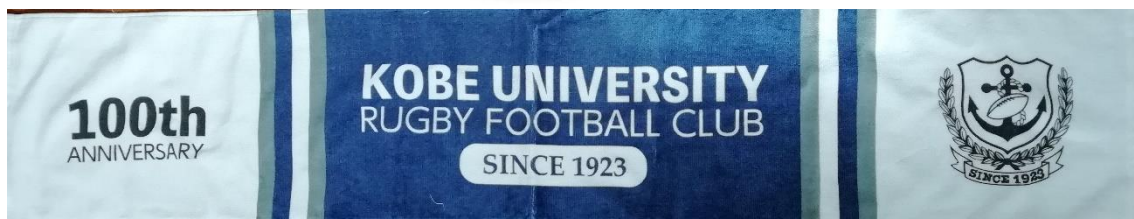
- 管理責任者と体制
- 利用者：医学部ラグビー部も含めた選手、マネージャー、OB・OG
- 医学部ラグビー部との情報共有
- OB・OGの利用方法
- 利用時間
- 入室キーの暗証番号管理
- 資産・備品管理（三商大戦トロフィー、定期戦・交流戦ペナント、記念誌等の蔵書を含む）
- クラブルーム内での飲食
- 掃除



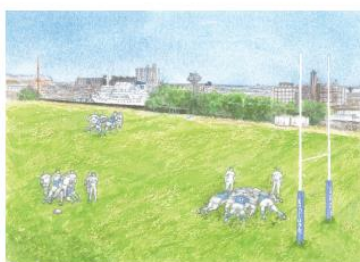
トレーニング設備

創部100周年記念誌・記念品(ピンバッジ&マフラータオル)

寄附をしていただいたOB・OGの皆さんへの配達は昨年12月に完了しました。記念誌の発行にあたり多くの関係者にご協力をいただきました。ありがとうございました。



Kobe University Rugby Football Club
100th Anniversary



神戸大学ラグビー部
創部100周年記念誌

神戸大学ラグビー部 創部100周年記念誌



創部100周年記念事業の会計報告

今年のゴールデンウィークに開催するOB総会で報告予定です。次号の凌霜ラグー通信で報告結果を掲載します。

2023 ラグビーワールドカップ FRANCE 観戦記

■2021年3~9月 観戦チケット購入!!!

77会と仲間たち

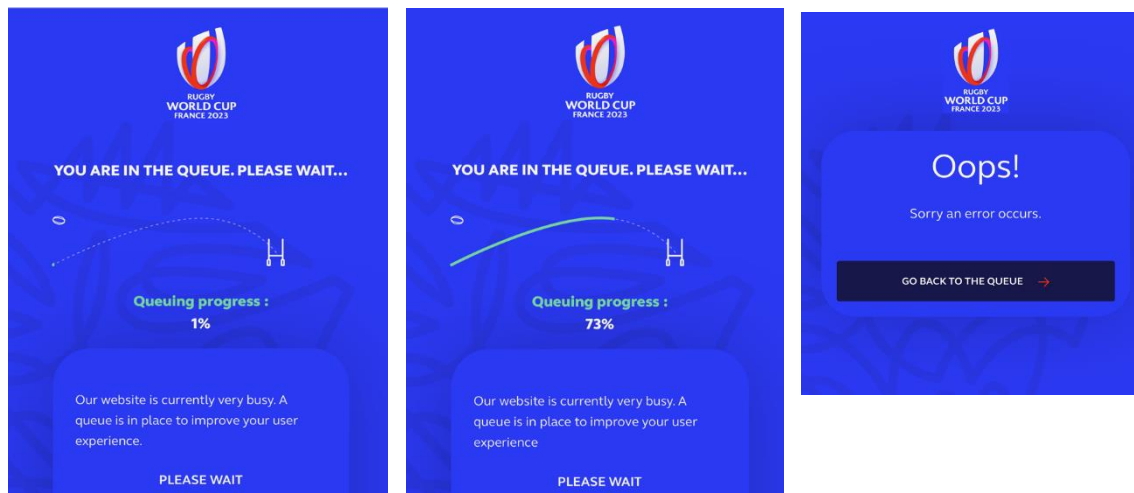
8年前、2015年9月、我々77会(1977年を卒業年次とするラグビー部同期の会)は、イングランドへのワールドカップ観戦ツアーを行い、ジャパンが南アを破ったブライトンの奇跡を、そのスタジアムで目撃することができました。そして2023年もフランスで、同じような体験をしたいと、2021年3月、最初のチケット売出しのタイミングから、グループ購入の行動を開始しました。

2019年のワールドカップ日本開催時は抽選でしたが、2023年のチケットは早い者勝ちのシステムです。開幕の2年半前の2021年3月15日の日本時間20時から発売。マスターカードを持ってるファミリー会員だけが参加できる、各国の、予選リーグ4試合パックのみの限定販売。

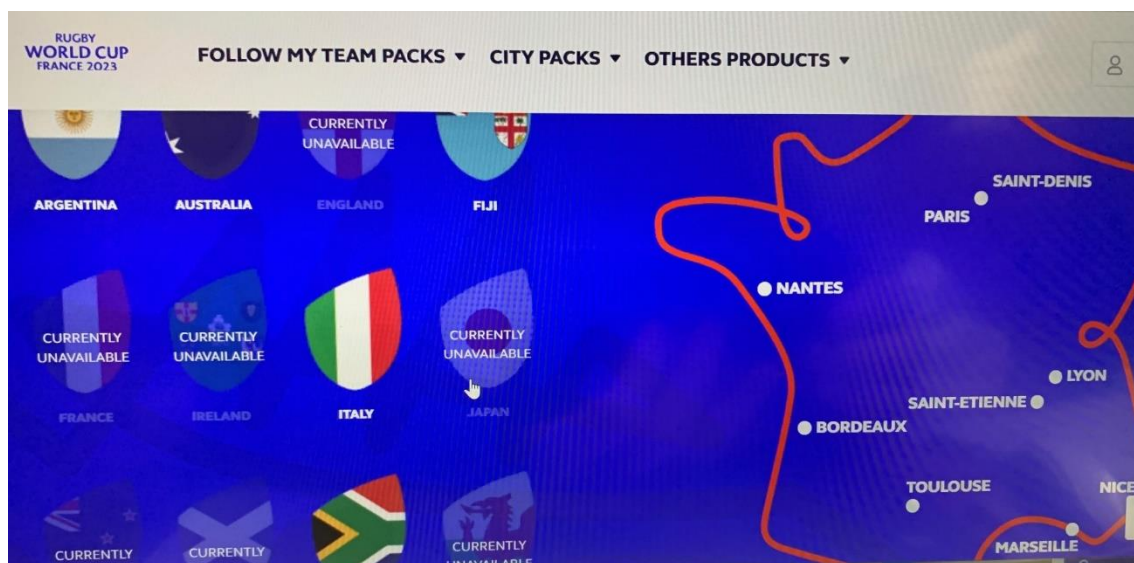
今回は、77会の7人と奥さん2人。それから1年先輩の松井さんと、1年後輩の磯江、田中(カズヒサ)が参加するので、12人分のチケット購入が目標です。1人6パックまで購入可能なので、ジャパン4試合パック×6パックを、我々の内2人がゲットすることが目標でした。

各自が自宅で相互連絡用のラインに参加しながら、パソコンかスマホで待機。20時から一斉にパソコンをクリックし続けるも、この日購入できたのは、河野(ゴン)の6パックと、木村の1パック(席が一人だけ離れているので使いにくい)だけでした。次回4月6日の売出しでは、何としてもジャパン4試合パック×6パックをゲットせねばなりません。

これが簡単で無いことを説明するのに、今回のチケット購入のシステムを紹介します。分かりやすくするのにたとえ話をしますが、百貨店の8階バーゲン会場で各国のチケットを開店から一斉に売り出すと考えてください。開店時間前に行ってみると既に1階の入り口は黒山の人だかりです。開店時間になると係員が、ドアを開けるから順番に並べと言います。黒山の人が係員の指した場所に一斉に並び始めるので、誰が前の方に並べるかは運次第です(要領の良さもあるが)。自分がどのあたりの順番に入れるか、どれくらいの時間が経ったら百貨店に入れるかは、ゴールまでの%で表示されます。並んだよと認めてくれると、0%というゴールポストまでの数字を与えられます。だんだんと%が増えていき、100%になると、百貨店の中に入れます。ただし、途中で少しでも列から外れると、一番後ろに並び直さねばなりません。百貨店の中にやっと入れても、10分以内に購入できなければ退場させると言ってます。必死で8階まで上がって、さあジャパンのチケットを買おうと思っても、人気のある国のチケットは売り切れていて買えなくなっているケースも発生します。1パックなら残っているけど、6パックまとめて買うのはできないよ。というケースもあります。実際の画面は次のとおりです。



一つ目は、列に並んで数分後、まだゴールまで1%しか来てないよ。二つ目は、1時間後くらいに、やっとゴールまで73%まで来たよ。というような画面。三つめは、途中で列から外れて、最初から並び直しと言われて0ops!と呻いている状態。



四つ目は、やっと8階にたどり着いて買おうとしたら、日本のチケットは既に灰色になっていて、クリックできない買えない状態を表示しています。

4月6日の発売は、フランス時間17時からなので、日本時間午前1時からでした。前回6パック購入できた河野(ゴン)がHC(ヘッドコーチ)となり、全員ラインで進捗状況をチャットしながらチャレンジするも、朝の4時頃までかかっても、日本のチケットは購入できず、仕方なく日本が4試合目に対戦するアルゼンチン4試合パック×3パックのみを買いました。今回も買えたのはゴンだけでした(さすがHCだ)。

その後は、9月28日と9月30日のシティパック(同じ開催地の2試合分がパックになって

いる)の売出し時に、購入可能なシティでジャパン戦のものを選んで、何とかジャパンの必要チケット数を確保。あとは、ジャパンの試合の日と次の試合の日の間で、適当な試合があれば購入し、合計64枚のチケットを購入したのです(必要なくなった分は後日公式サイトで転売できました)。

夜中のチケット購入時の必死のラインのやりとりの中から、一部を添付します。



※ご参考・スマホでやるとシステムダウンすることが多いです。特にスリープモードに入るとシステムダウンし、Oops! となります。

・ホテルや飛行機のチケットは、早い目に予約しなければ、大会直前になるとべらぼうに高騰するし、良いものは無くなります。グループ旅行の場合、それらの予約をうまく進めるには、まず観戦チケットをゲットすることが重要なのです。

さて 2023 年。この後が観戦記です。それぞれの家庭の事情などもあり、室夫妻・磯江とその友人・糸井夫妻・77 会ツアーの4つに分かれて渡仏しました。予選プールのジャパン戦4試合の観戦記とその地の紹介を、手分けして書きます。

■9月10日 VSチリ @ラグビーと人情の町トゥールーズ

S53 卒 磯江

「あなたの荷物はまだハンブルグ空港だ。トゥールーズ着は明日の便に。」と LH 航空から無慈悲なメールが携帯に届いた。トゥールーズ空港で荷物到着を待つ客は自分だけになり、嫌な予感が頭をよぎった瞬間だった。翌日は大事な日本 vs チリ戦。その試合で着るジャパンのジャージの入るトランクが明日の到着では、間に合わない。出だしから最悪のトゥールーズに。何とか気を取り直し、RWC2023 空港ボランティア(写真)を見つけ、藁をもすがる思いで状況を



伝えると、直ぐに空港内の LH 航空カウンターを見つけてくれた。カウンターに行くと、「ここは発券カウンター。荷物探しは我々の仕事ではない。空港のロストバゲージに行け。」との冷たい仕打ち。(荷物をロストしたのはお前らやろ!) 結局空港ではラチが明かず、ホテルから電話で LH 航空と交渉

するのが良いと思い、予約していたレンタカー会社へ。車を借り、「ホテルまでの地図を」と頼むと、「地図は無い。自分のスマホを接続しナビを見て行け。」とけんもほろろ。日本から来たスマホは役に立たず困っていると、それを見かねた女性社員 Manel Ikou さんが、親切に手書きの道案内を書いてくれた。(右)

→ At the round about go to AV DE LOUDRES
→ At the round about go to AV DE ROMG
→ At the round about go to AV DE PARIS /
PARC D'ACTIVITE
→ Continue in A621
→ Take the N301
→ Follow SAINT MARTIN DU TOUCH
→ At the round about go to RUE ALAIN
FOURNIER
→ At the round about take the first exiting
→ The hotel is at your left!

レンタカーでいざ空港を出発するも、日本の交差点と違い、フランスのそれはすべてロータリー。道案内通りに走るのは至難の技。気が付くとまた空港に逆戻り。途方に暮れて天を仰いだ。その時、ププーとクラクションがなり、横を見ると、何と Manel Ikou さんが、「ついて来て。ホテルまで案内するわ。」地獄に仏とは正にこの事か。ホテルに着きチェックインし、フロントの Abdel 氏に話をすると、「カスタマーサービスはフランス語やから私が話すよ。」と代わりに交渉を。が、LH 航空は、「決まった予定は変らない。明日だ。」の一点張り。着替えもなく部屋で落胆していると、誰かドアをノックする音が。ドアを開けると見知らぬ外人が、何とジャパン首脳陣ポロシャツを掲げ、「これを明日着ろ。」との由。彼はフロントでイソエの後ろにいたイングランドから来た Andrew Molloy 氏。並んでいた間に経緯を知り、部屋まで助けに来てくれたのだった。最悪のトゥールーズが、涙溢れる人情のトゥールーズに変わった瞬間だった。



屋で落胆していると、誰かドアをノックする音が。ドアを開けると見知らぬ外人が、何とジャパン首脳陣ポロシャツを掲げ、「これを明日着ろ。」との由。彼はフロントでイソエの後ろにいたイングランドから来た Andrew Molloy 氏。並んでいた間に経緯を知り、部屋まで助けに来てくれたのだった。最悪のトゥールーズが、涙溢れる人情のトゥールーズに変わった瞬間だった。

翌日 Stadium de Toulouse へ行くと続々とゲートへ向かう観客の大群が。「オーこれが RWC 2023 なんや！」。なんと地元警察までが記念トートバッグを配りラグビー観戦客をもてなし、大歓迎の雰囲気がムンムンであった。前日に熱を出されたが、S52 卒室先輩もギリギリ観戦に間に合い、無事全員（S52 卒の室先輩ご夫婦、兵庫高校ラグビー部の田川先輩ご夫妻、磯江の妹、磯江の6名）揃って観戦出来た。（写真）



日本からの応援団もかなり観戦に来ていたが、スタジアムはどこから来たのかと思うチリ応援団の大群であふれ、日本のアウェー感是否めず真っ赤であった。が、Stadium de Toulouse は、これから始まる日本対チリ戦に向けて手入れが行き届いた素晴らしい緑色の芝グラウンドであった。

42-12 の日本勝利の結果は既に報道済みの通りだが、ファーストスクラムの時

点で、RWC2023 前のテストマッチは1勝5敗と苦しんでいたジャパンの姿はもはや無く、今日は勝った！と確信した。ただ、試合開始早々の油断から許した 0-7 となる先制トライ（ノックンとセルフジャッジか？追撃をやめた。後のイングランド戦でも起こった。）は頂けなかったが、RWC2023 初戦で速く強いジャパンが蘇り、#5 ファカタバのトライで直ぐに 7-7 の同点に追いつくと、続いて規律に劣るチリ（イエローで一時退場者も）に BD でもセットスクラムでも競り勝ち、BK 展開から #11 ナイカブラが追加トライを決め 14-7。さらに終了間際に再度ファカタバのトライで前半 21-7 とリードを広げた。一方、プレーでは勝てないと感じたチリ応援団の地鳴りする応援歌による“猛攻”は凄まじく、ニッポン・チャチャチャのアホの一つ覚えの応援しかない日本応援団の声は掻き消され、ファンとしては悔しいが、日本の応援は撃破され完敗であった。後半もチリに先制ト



ライを許し 21-12 とされたが、その後は小気味よい BD からの展開で #6 リーチが満を持したトライを決め (写真)、28-12 と突き放した。フィットネスで上回ったジャパンは 35-12 とする #12 中村のトライと、#19 ディアーズの終了間際のトライで 42-12 とチリに引導を渡した。#10 松田は、6 本のコンバージョンキックを全て決めるスーパーキックを見せてくれた。ジャパンはこの RWC2023 初戦で今までの鬱憤をはらす快勝で上々の滑り出しを見せ、その後旧トゥールーズ市街の Brasserie de L' Opéra での祝杯は、過去最高のシャンパンの味だった事は言うまでもない。

■9月17日 VS イングランド @ニース

S52 卒 糸井

2023. 9. 17 は南仏のニースで難敵、England との対戦の日。ニースはモナコ、カンヌ等と並び南仏の観光名所だ。

夕方からの Kick Off なので、ホテルでゆっくり朝食とった後、一人でシャガール美術館へ行くことにした。Metro と Bus を乗りついで 40 分程度と Google Map が教えてくれる。丘の中腹にある大きな邸宅。ある時期に美術館になったのかなと思わせる、ゆったりとした敷地に、これまた贅沢な平屋の建物。天気もよく、館内だけでなく、別棟の cafe の写真を撮ったりして、満足度*****でした。



帰路メトロの駅につくとワヤワヤと人が一杯。Japan のジャージを着込んだ人も複数見受けられる。まだ、Kick. off まで 4 時間近くあるけれど?!

夕方になり、Stadium の最寄り駅の Cafe は欧米人で溢れている。TV で Fiji vs 豪を見ていたのだった。終了間近でまだ Fiji がリードしている!! Fiji が逃げ切ると皆、大歓声!! 判官最良は洋の東西を問わないようだ。

その中に、空手か柔道の道着をまとい日本の必勝鉢巻を巻いた西洋人のグループを発見。写真に収める。

Peacock の刺繍からフランス人と想像できる。Fiji に続いての Japan の金星を期待してくれているようだ。



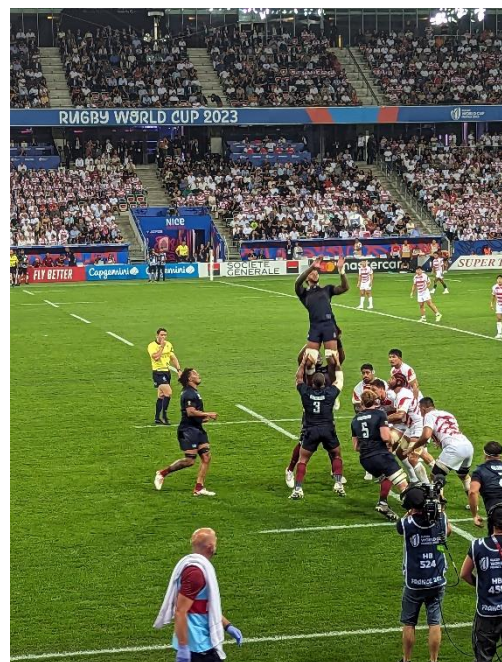
試合開始!!

最初のスクラム、がっちり組み合い動かない。前回の対戦から Japan のスクラムは格段に進歩している!!

手堅い PK の応酬、No Try でアルゼンチンを下したイングランドの SO、Ford が左からの PG を失敗する。Oh!! Japan に風が吹いている!! 前半を終了して、13-9。期待が膨らむ。

後半に入るが、一進一退。しかし Japan も手堅い PG のみで、Try が取れそうな匂いがしないのも事実。

そんな中で 55 分、自陣 22m 付近でイングランドが右から左への展開。そこで、後に“Heading トライ”と言われる事件が起こる。



イングランドが回したボールがポスト前にバウンド。走り込んだ Lawes が pick up し軽く押さえる。「ノックオン!」会場全体の緊張感が一瞬緩む。ざわざわした数秒の後、TMO 判定で Try のホイッスル!!

ボールがプロップのマーラの額にあたり、ボールが前方に飛んだのだった。会場全体が「何んだよー!!」の白けた空気に。結局、この Heading パスが 均衡を破る形になり、さらに Try を献上しての敗戦となった。しかし、あの Heading が無くても Japan が勝ちきれたか? と言うと疑わしい。善戦したけど及ばずの感じが強い。

終盤に、ほぼ勝敗がついた局面で、並び席で観戦していた、留学生ラグビー部員のウィル君が大声で「神戸大学 !!」と叫んで Japan を鼓舞した。びっくりしたけど、神戸大学への愛を感じて、強烈に印象に残った。

後日談の HC のコメントにも納得がいった。「今回は Defensive な体制で臨まざる得なかった。選手選考もその方針に沿った。」
そーだよなー。2023 年の Japan.



■9月28日 VS サモア @トゥールーズ

S52 卒 山形

残念なことに、チケット購入の際は、HC として大活躍したゴン(河野)が、日本出発の直前に脳梗塞で入院。77 会ツアーは、とっさん(河島)、キムラ(木村)、チュン(中崎)、ガタ(山形)と、松井さんの5人で出発することとなった。

9月28日の対サモア戦に向けて26日にトゥールーズに入った我々は、27日にTGVで1時間の距離にあるカルカソンヌへ小旅行。「カルカソンヌを見ずして死ぬなかれ」と言われているら



しいローマ時代を起源とする巨大な城と、その中のシテと呼ばれている旧市街を散策。案内してくれたガイドさんお勧めのレストランの庭で、郷土料理のカスレ(豆と肉を煮たもの)や鴨料理でランチ。「アペリティフと言って、フランス人は夕方から1~2時間、食前酒を飲んでおしゃべりを楽

しむ習慣があります」といった話を聞きながら、ビールとワインで昼食が終わると、他の客は誰もおらず我々が最後。アペリティフを実体験だ。

夜は糸井夫妻とトゥールーズで合流し、7人でビストロ料理。

9月28日は、サン・セルナン・パジリカ教会やキャピタル広場など、煉瓦色のトゥールーズ市内を徒歩で観光。キックオフ 21:00 の2時間前には、メトロでスタジアムへ。日本人以外の人でも日本のユニフォームを着て人がたくさんいて、嬉しかった。



実は試合内容の記憶はあまり無い。むしろ、スクラムが始まってるのに、3周もウェーブが続いている観客達が腹立たしかった記憶の方が強い。試合は前半順調にリードしたものの、後半の後半一方的に追い上げられたので、勝ててほんとうにホッとした。

■10月8日 VS アルゼンチン @ナント

10月7日、拠点としているパリのアパートを朝早く出てTGVに乗り、ナントに10時到着。ナントは一週間前にアルゼンチンVSチリ戦を見に来たので2回目。ウェールズVSジョージア戦が15時からなので、午前中は観光。明日は、日本VSアルゼンチン戦があるので、2日分のスタジアム行のトラムのキップを買おうとしていたところ、親切な二人連れの女性が「さっきのTGVの中で、ワールドカップの試合のある日のトラムはただと言ってましたよ。」と教えてくれた。ナント市はなんと太っ腹なことかと感激した。1日1千万円程度の減収になるだろうに。

S52卒 山形



一週間前は、マシン・ド・リルという、人が乗れる機械仕掛けの象や鳥が人気の観光地に行ったので、今日はブルターニュ大公城やサンニコラ教会など、見所が点在する美しい市内を歩いて、昼食のレストラン「ラ・シガール」へ。このレストランは、一週間前に来たところ、リーズナブルな価格(3品セットで30ユーロ)

のランチと白ワインが美味しかったので、予約して今日も来た。レストランの前では魚介類も売っている、新鮮な食材を使っていると思われる。後で知ったが、ガイドブックにも載っており、昔ながらのアラビア風の店内装飾が維持されており、人気店らしい。

ウェールズ VS ジョージア戦観戦後は、糸井夫妻と合流し、ベトナム料理店へ。

10月8日、いよいよ今日は13時からアルゼンチン戦。2時間前にスタジアムへ着くことを目指して、トラムに乗る。ジャパンのユニフォームを来た人とアルゼンチンのユニフォームを来た人は同じくらいの人数だが、奴らはトラムの中から早くもうるさい！でっかい声でしゃべってたかと思うと皆で大声で応援歌らしきものを歌い始めた。悔しかった。我々が声を合わせて歌える応援歌が無い。身体の内は燃えているのだが、黙っているしかない。チリ戦かイングランド戦かのテレビを見ていた時に、ジャパンチームのお気に入りとかいう長渕剛の歌がスタジアムに流れていたのを思い出して、「乾杯」の歌詞をスマホで調べて、ツイッター(X)で、「皆で歌おう！」と流そうとしたがうまくできなかった。



スタジアムに着いて、ジャパンチームが練習に現れる直前、長渕剛の歌が流れた。「とんぼ」だった。そうか、とんぼだったんだ。でも皆で歌う応援歌にはなっていないや。皆で大声で歌えるジャパンの応援歌が欲しい。と切に思った。

スタンドの両チームのユニフォームの数は、やはり半々位。奴らと違って歌は無いが、声援の

声の大きさは負けてなかったと思う。それはジャパンの選手の健闘があったから。開始早々のタックルを外されてのトライはショックだったが、その直後のファカタバのトライには感激した。奴らの応援に負けまいと、何度もジャンプして喜び叫んだ。その後のフィフィタから斉藤へつないだトライ、レメキのドロップゴール、ナイカブラのトライと、どれも僅差に追い上げる美しいトライで興奮した。会場全体がすごく盛り上がった。最後の15分位は、明らかにジャパンの選手が疲れているのを感じた。もどかしくて見ていて少し辛かった。



試合前「パリに帰る日だけど、勝ったら選手の挨拶に拍手を送るまでスタジアムを出ないよ」と言ってたのだけど、そして負けたのだけど、ノーサイドの笛の後選手が挨拶のため目の前に並ぶまで、帰る気はしなかった。選手が来るまで呆然と立っていたように思う。選手に拍手をした

後、向かいのスタンドを見ると、やはりジャパンのユニフォーム来た人達が、帰らずにたくさん立っていた。「残念だけど良く頑張ってくれた」みんな同じ気持ちだったように思う。

意外と、帰りのトラムの中のアルゼンチンファンは静かだった。応援歌も無かった。まだスタジアムに残って騒いでいる奴が多いからなのか、ラグビーファンの優しさなのか、それは分からないけれど。また来たいと思った。

訃報ご通知

謹んでご通知申し上げますと共に心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌

名取 幸男様 (S30 卒) 令和5年9月7日ご逝去

名取先輩追悼

昭和53年(1978年)卒 OB会会長 田中計久

去る9月7日、昭和30年卒の名取幸男様が91才でご逝去されました。7月9日に六甲台出光記念講堂にて開催した創部100周年記念式典にはお元気な姿で出席され、いつものように穏やかな温顔で優しく接していただいたことが思い出され、本当に残念でなりません。

神戸大ラグビー部とOB会に対する思いや愛着が人一倍強く、5年前の芝生化事業や創部100周年事業の寄付に際しては、率先して前後学年のOBに寄付を呼び掛けて下さいました。創部100周年を見届けて、名取先輩らしく潔くこの世を去られたような気がします。

会長就任後には、度々お電話やお葉書にて温かいアドバイスと激励のお言葉を頂戴しておりました。またOB会や東京支部の理事会や総会では、いつも真剣に、且つ鋭い眼光で発言を聞いておられたお姿が忘れられません。ご生前のご指導とご交誼に厚く感謝申し上げ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

OB会費納入のお願い

OB会費については皆様のご理解を頂き、年々納入額が増えております。2023年度の振込がまだの方は下記振り込み先にて手続きをお願い致します。なお、口座振替の方はすでに昨年6月28日に自動引落としされています。

振込で年会費を払っておられるOB・OGの方々には、できるだけ口座振替にして頂けることをお願いします。口座振替での納入方法を用意していますので、ご希望の方は事務局までご連絡をお願いします。口座振替用紙を送付させていただきます。今後ともOB会の財務基盤強化に向けて何卒ご協力、ご支援をどうぞよろしくお願い致します。

【年会費】

卒業後10年未満(H26卒～R5卒) 6,000円(マネージャーは3,000円)、卒業後10年以上(～H25卒) 12,000円(マネージャーは6,000円)、賛助会員5,000円。70才以上の卒業年度の方で特段の申し出のなかった皆様からは、ご寄付いただいたものとして引落としさせていただきます。

いておりますのでご了承ください。

【振込先：凌霜ラグークラブ】

三井住友銀行 天満橋支店 普通口座 0957978

三菱 UFJ 銀行 大阪駅前支店 普通口座 0027557

ゆうちょ銀行 口座 00960-4-302152

令和6年度(2024年度)OB総会と春季試合予定

1月31日時点での情報です。最新情報はホームページでご確認ください。

- ・理事会及び現役4回生慰労会 3月10日(日) 神戸大学大阪クラブ(旧大阪凌霜倶楽部)
- ・OB総会：4月下旬に深江キャンパスで開催予定
- ・OB戦、東京支部総会：未定
- ・三商大戦：未定
- ・定期戦(東京海洋大学、甲南大学、関西学院大)：未定
- ・近国体：未定

神戸大学ラグビー部ホームページ

(URL) <https://www.koberfc-official.com>

ホームページ中のOB会員ページを閲覧するためにはパスワードが必要です。

ホームページのパスワード：ryosorugger2023

このパスワードは学年幹事経由でも別途連絡します。

現役情報は、Instagram、Facebook、X(旧Twitter)でもご覧いただけます。

名簿内容変更の連絡について

- ・会員の住所、電話番号、メールアドレスなどの変更は事務局で随時受け付けています。変更があった場合は速やかにOB会事務局までご連絡願います。

神戸大学ラグビー部OB会事務局

- ・メール itagaki@mikunikinzoiku.jp または kobe.u.rfc.ob@gmail.com
- ・電話 080-9543-0441(板垣OB会事務局長の携帯電話)
- ・郵便 〒662-0051 西宮市羽衣町7-32-509(板垣毅)
- ・FAXはありません。

会報担当：遠藤 勉(S60卒)